



2022年2月21日

株式会社立花商店 生田 渉

## (新) 週刊カカオニュース第60号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

今週のカカオニュースを配信させていただきます。

### 1. カカオの持続可能な調達 チョコ大手、新興企業と連携 (2/15) 産経新聞

チョコレートの菓子大手が、サステナブル（持続可能）な原材料調達へ、スタートアップなどとの連携を進めている。ロッテは、海外に契約カカオ農家を持つチョコ製造会社を買収し、調達を通じて産地の支援を行う。明治ホールディングスは、米国のスタートアップに出資し、カカオの新たな調達方法などで共同研究を始める。人権や環境に配慮した供給網の構築が企業の課題となる中、生産から携わる動きが大手にも広がっている。「今後は自社でトレーサビリティ（生産履歴の追跡）を確保し、フェアなカカオを使う」。ロッテの牛腸栄一社長は、1月に実施した京都市の「ダリケー」買収の意義をこう語る。ダリケーはインドネシアの約500の農家と契約し、生態系に配慮した農法や香りを高める発酵技術を指導。高品質なカカオとして市場より高く買い取り自社商品に活用している。ロッテは現地支援に寄与する方法での豆の調達比を令和10年に50%とする目標を掲げる。ダリケーとのタグで調達網の公正性を高め、目標の上方修正をうかがう。ダリケーの技術を商品開発にも生かす方針だ。

大手で現地支援を先駆けているのは明治で、平成18年から9カ国で技術指導やインフラ整備を手掛ける。昨年11月にはカカオの細胞培養技術を持つスタートアップに出資。チョコは世界的な需要拡大が見込まれており、担当者は「新技術で持続可能な調達に貢献したい」と話す。

カカオの国際取引価格は上下しやすく、困窮する産地では児童労働が問題となっている。公正価格で買い取るチョコの「フェアトレード」は10年以上前から聞かれたが、一部の動きにとどまっていた。ここ数年で「味も持続可能性も備えて初めて評価される時代になった」とダリケーの吉野慶一社長は指摘する。供給網の人権問題への注目も高まり、一気に大手の背中を押した。

小売りも「買って貢献したいというお客の声がある」（高島屋）とし、バレンタイン商戦では各社がサステナブルの関係商品を一押しした。ロッテの牛腸社長は「産地も社会も見渡しながらか貢献する姿が当たり前になるだろう」とし、業界を問わず取り組みが加速することを予測している。

### 2. アフリカカカオ：コートジボワールでは季節外れの雨によりミッドクroppが増加か (2/16)

カカオのトップ生産国であるコートジボワール全域で季節外れの雨が降り、来月末に始まるミッドクroppの収穫を歓迎する結果となった。

南部の町プチダナーヌの農家、ガイ・カボ氏は「私たちの地域に雨が戻ってきたのは、3月に雨が降っていたので、やはり珍しい」と語った。「これはミッドクroppのカカオの生育にとって良い兆候です」

コートジボワールで雨天が戻った一方で、隣国ガーナの南西部では、国内のカカオの約 55%が栽培されており、農家は雨を切望している。長期にわたる乾燥した天候がカカオのサヤを荒らし、生産者の生活を脅かしている。

他の地域では、カメルーンの主要生産地のひとつで、農家が雨季の到来に備えている。カメルーン南西部のクンバに近いコニエの農家、マティアス・ンドウンベは「気候条件はすでに、3月中旬よりも早く雨季が始まる可能性を示しています」と話す。日中は晴れているが、夕方は曇って湿度が高くなるという。すでに肥料や殺虫剤、農薬を入手している農家もあれば、不要な茎を剪定している農家もあるとンドウンベは言う。

ナイジェリア南東部の農家は、5週間雨が降っていない地域に早朝の露をもたらすハルマタンシーズンのおかげで、ミッドクロップの収穫数量をあきらめていません。しかし、南西部の農家は、ハルマタンに特徴的な風も同様に破壊的であり、まだ幼いさやが木から吹き飛ばされると考えており、今後も注視が必要だ。

### 3. ガーナのココア生産高、天候不順で前年比 42%減 (2/15)

～乾燥のため、通年の生産目標 85 万トンが危ぶまれる事態に～

ガーナは収穫量予測を下方修正しなければならないかもしれない。ガーナの今収穫期のカカオ生産量は、干ばつでさやが枯れ、前年同期比で 42%減少し、2021/22 年作期の生産量見通しを脅かしていると、この問題に直接詳しい関係者は述べる。

速報値では、世界第 2 位のチョコレート原料の生産者である同社は、10 月 1 日のシーズン開始から 2 月 3 日までに 40 万 8321 トンの豆を収穫したという。これは、前年同期の 704,000 トンと比較してのことである。ガーナ・ココア委員会のスポークスマンであるフィフィ・ボアフォ氏は、この数字は正確ではないとしながらも、生産量の推定値については言及を避け、規制当局である COCOBOD はまだシーズン中であるため生産量について議論することはないと述べた。

規制当局は、2020-2021 年の記録的な収穫量 105 万トンの後、シーズン開始時の全体生産量を 85 万トンと予想し、2021-2022 年シーズン向けに総額 15 億ドルのシンジケートローンに調印した。

### 4. コートジボワール、乾燥した天候がカカオの収穫に打撃 (2/18)

コートジボワールのいくつかの地域では、過去 3 ヶ月間の乾燥した天候によりミッドクロップの生育が妨げられていると、農家、取引業者、当局者が木曜日に発表した。

12 月以来降雨が止まっている同国中南部地域が最も大きな打撃を受けており、カカオの木が完全に干上がってしまっている。

ニエメリリ村で 4 ヘクタールのカカオ農園を所有するクアシ・ドンゴ氏は、「今雨が降らなければ、カカオの生産は基本的にできないだろう」とも述べている。

近くの Niambre 村で約 7 ヘクタールのカカオ農園を所有する生産者は、「太陽がすべての植物を焼いてしまった」と述べました。彼は、カカオの木の約 90%を失ってしまったという。

干ばつとは別に、いくつかの農園は乾燥した天候の時にカカオの木を破壊する樹木の背中を食べる虫、capsid にも襲われている。

コートジボワールのカカオとコーヒーの監視機関であるコーヒー・ココア評議会は、気候変動の悪影響と思われるこの状況について公式にコメントを出していない。

CCC の複数の関係者は、同国のカカオ農園を破壊した深刻な干ばつにより、現在の 2021-2022 年クロップシーズンのミッドクロップの生産数量の約 4 分の 1 が失われる可能性があるかと予測しています。

政府および産業界の統計によると、2020-2021 クロップシーズンにコートジボワールは 215 万トンのカカオを生産し、2021-2022 シーズンは 200 万トン程度の収穫数量を予測している。

## 5. カカオの国コートジボワールで森林破壊の進捗が鈍化した事を強調 (2/18)

コートジボワールは18日、過去50年間にカカオ農園が大規模に広がった結果、森林破壊が大きな問題となっていたが、直近の数年には森林の減少が大幅に抑えられたことを「真の成功」と称えた。

世界最大のカカオ豆の供給国であり、世界の生産量の40%以上を占めるコートジボワールは、1960年代には1600万ヘクタールの森林を誇っていた。しかし、政府の統計によると、現在、コートジボワールの森林はわずか200万ヘクタール。

水・森林省は、森林を保全・拡大するために2018年に採択された新しい政策が、森林破壊の「大きな」減少に大きな役割を果たしたと述べている。衛星写真によると、2019年から2021年までの損失は年間約2万6000ヘクタールだと同省は声明で述べている。「1990年から2015年までの年平均の損失率は、約30万ヘクタールの森林だった」と同省は指摘する。

この改善には、コートジボワールと隣国ガーナが、業界のサプライチェーン内での森林破壊を食い止めるために、主要なココアやチョコレート生産者とともに2017年に立ち上げた「カカオと森林のイニシアチブ」も役立っている。

水・森林大臣のアラン・リシャールは、2030年までに現在の樹木被覆を600万ヘクタール—国土の約20パーセント—to一倍増させる計画を立てている。

コートジボワールは昨年、650人の兵士からなる「緑の軍隊」を設立し、森林破壊に立ち向かっている所だ。

## 6. ウガンダカカオ：ブンディブギョ地区の生産者は、生産量の大幅な減少を懸念。(2/18)

カカオ生産者の説明によると、カカオの大幅な生産数量の減少は、気候変動の影響、盗難、悪い農薬の使用によるものだそうです。ブンディブギョはウガンダを代表するカカオの産地で、カカオは年間を通じて月2回収穫され、9月から2月、3月から8月がハイシーズンです。そのため、農家は1月から12月まで安定した収入を得ることが出来ます。

現在、ウガンダのカカオ豆の販売業者の多くは、コンゴ民主共和国国内に集荷拠点を設け、そこからカカオ豆を購入し、ウガンダに輸入してそこからケニアのモンバサ港を通じて再輸出を行っています。

カカオとバナナの調達と輸出を行うエスコ・ウガンダ・リミテッドのアシスタント・マネージャー、フランシス・アゴベ氏は、この地区は過去3年間生産量が少なく、会社の購入数量は、以前と比べ20%程度低下していると言います。彼は、害虫や病気、盗難、カカオの木の老朽化が原因であると述べています。

アゴベ氏は、カカオの木を科学的に再生させるだけでなく、農民がより良い農学技術を身につけられるよう支援する必要があると述べています。カカオのバイヤーであるRobert Walugembe氏は、生産量が少ないため、一部の大手バイヤーは費用対効果が見込めないため、この地区に来ることを恐れ、小規模な小売業者に代理で買い付けを依頼することを好むと言います。

また、2年間のコロナによる閉鎖期間中、多くの農家は農園を維持するための資源が不足しており、完全に諦めてしまった農家もあると言います。また、ここ4、5年と比較すると、仕入れは30%近く減少しているとのこと。

カカオ生産者のサドレス・カブーゴは、カカオポッドボラー（害虫）が庭に蔓延してから、ここ1年でカカオ栽培の運が悪くなったと言います。というのも、収穫数量が少ないことに加えて、収穫時期になると農園に侵入してくる凶悪犯が生産量の減少の原因であると述べています。昨シーズンは、泥棒にカカオをはじめとする彼女の栽培した農作物を奪われたそうです。

また、1970年代からカカオビジネスに携わっている同地区の有力農家ジェフリー・マセレカ氏は、彼の農園は6年ほど前から害虫の問題に直面しており、そのため収量が確実に減少していると述べています。

現地の農業省のカカオ担当であるロバート・ティバクニルワ委員長は、この生産量の減少は、主にカカオに依存しているこの地区の家計に大きな影響を及ぼしていると述べている。ウガンダ輸出振興局のデータによると、ウガンダは、年間3万トン以上のカカオ豆を輸出している。

## 7. ナイジェリア・アクワイボム州におけるココア価格の下落について (2/17)

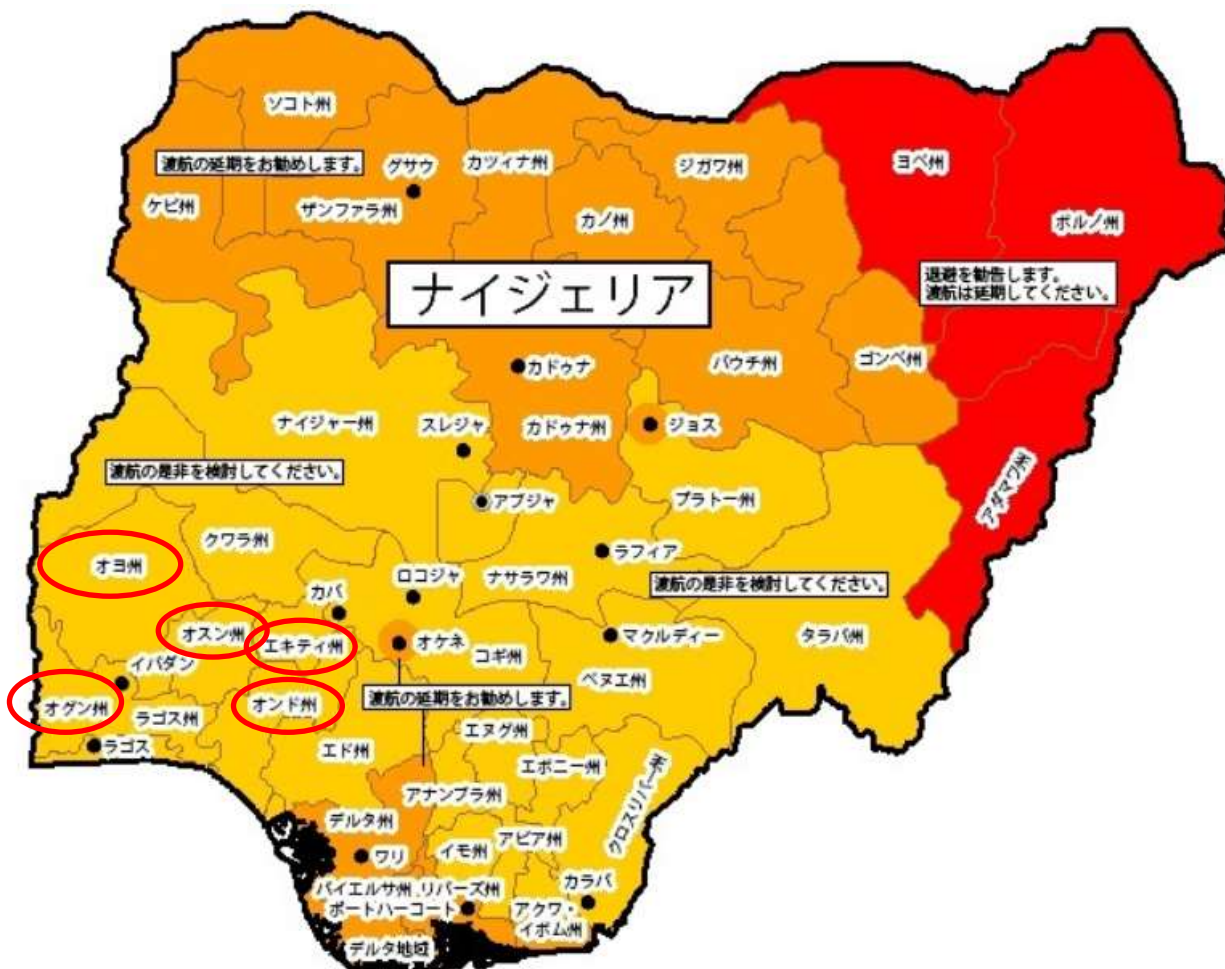
カカオの価格は今週、ナイジェリアのアクワイボム州で下落したと、あるトレーダーが金曜日に語った。州都ウヨのトレーダーによると、チョコレート原料は9日前の120万NGNから1トン110万ナイジェリア・ナイラ（2638ドル）に下がっている。

トレーダーによると、カカオはサイズが小さいため、現在買い手にとって魅力が少なく、価格が下がった要因となっている。

## 8. ナイジェリア南部は2022年に十分な降雨を期待できる。気象庁発表 (2/19)

ナイジェリア気象庁の2022年の季節別気候予測によると、ナイジェリア南西部のカカオ栽培州は今年十分な降雨を期待できる一方、南東部のカカオ生産者は過剰な降雨を受ける可能性があるという。

南西部のオグン、オヨ、オスン、オンド、エキティのカカオ生産5州（ナイジェリアの年間カカオ生産量25万～28万トンの70%を占める下記の赤枠の地域）は、12月から雨が降っていないため、この予測が正しいとすれば、喜ばしいニュースになる。



オンド州農業省の職員によると、カカオの木がよく育つには、1シーズンに平均1,200ミリ（47.2インチ）の雨が必要だという。2022年の季節予報では、エキティ、オスン、オヨの3州で1,200ミリから1,600ミリの雨が降ると予想されている。

一方で、南東部のカカオ生産地域の州は、年間降水量が 3,000mm 以上となる見込みと発表。ナイジェリア気象庁のマンスール・マタズ長官によると、南西部のカカオ産地にあるオグン、オヨ、オスン、エキティの各州は7月下旬から8月上旬にかけて「小乾季」となり、最大で日照りが20日間続くと予想される。小乾季は通常、農家が雨の後にカカオを適切に天日干しすることができ、黒かび病対策になる。

## 9. ココアフラバノール 脳血管を活性化、認知機能も向上 (2/20) 日経 GOOD DAY 記事より

カカオ豆に含まれるフラバノールを高用量摂取すると、脳の血管の機能が活性化され、同時に一部の認知機能も向上することが、英国で行われた小規模な無作為化試験で明らかになりました。フラバノールは、ポリフェノールのなかで最もよく知られているフラボノイド系化合物の一種です。緑茶の成分としてよく知られているカテキンやエピカテキン、エピガロカテキンなどがフラバノールに分類されます。フラバノールは緑茶のほか、ココア、ベリー、ブドウ、リンゴ、紅茶などにも豊富に含まれています。

これまでに、フラバノールを摂取すると手足などの末梢血管の機能が向上することや、加齢による認知機能の低下を防ぐ作用を持つ可能性が示唆されていました。そこで今回、米イリノイ大学の Gabriele Gratton 氏は、若く健康な男性を対象に無作為化試験を行い、フラバノールが脳血管の機能と認知機能に及ぼす影響を調べることにしました。詳細の記事は下記のリンクより、

<https://style.nikkei.com/article/DGXMZ070722740W1A400C2000000?channel=DF140920160927>

## 10. コートジボアール新物、2/7-2/13 の週間着荷数量は 78,376 トン (2/14)

政府のデータに詳しい人物によると、コートジボワールの生産者は先週、66,434 トンのカカオを港に出荷した。前年同時期の数量は 51,295 トンであったので現在港への着荷は増えている。10月1日のシーズン開始からの総着荷数量は、約 160 万トンとなっており、昨年同時期の 158 万トンを上回る数字になっている。収穫の遅れがシーズン当初に見られたが現在は昨年を上回る数字で推移している。

下記は、同国内のカカオ豆の買受先の一覧である。最大の買い手は、バリーカレボーのグループ企業である Saco 社や、Olam International の関連企業である Outspan, や Cargill などの企業である。

以下は、10月1日から2月13日までの上位各社の購入量（単位：トン）の表である。

| 会社名              | 購入数量(トン)  |
|------------------|-----------|
| カーギルグループ         | 251,159   |
| Saco 社           | 185,303   |
| アウトスパン(オーラムグループ) | 176,312   |
| Touton 社         | 103,196   |
| S3C 社            | 99,054    |
| その他企業            | 786,895   |
| 合計               | 1,601,919 |

## 11. ネスレ、21年は増収増益(2/18)

スイスの食品大手ネスレが17日発表した2021年決算は、純利益が169億スイスフランとなり、20年の122億3000万フランから増加した。堅調な小売販売や外食などの販売ルートの安定的な回復、価格引き上げ、市場シェア拡大が寄与した。

売上高は870億9000万フランで、前年の843億4000万フランを上回った。好調なコーヒー分野に支えられ、買収などに頼らない有機的成長率は7.5%に達した。実質内部成長率は5.5%だった。

価格設定は2%上昇。同社がコスト上昇の価格転嫁に努める中、10-12月期（第4四半期）の上昇率は3.1%に達した。2022年については、売上高の有機的成長率が約5%になると予想している。

同社は配当について、前年を0.05フラン上回る1株2.80フランを4月7日に予定される年次株主総会で提案する方針だと述べた。

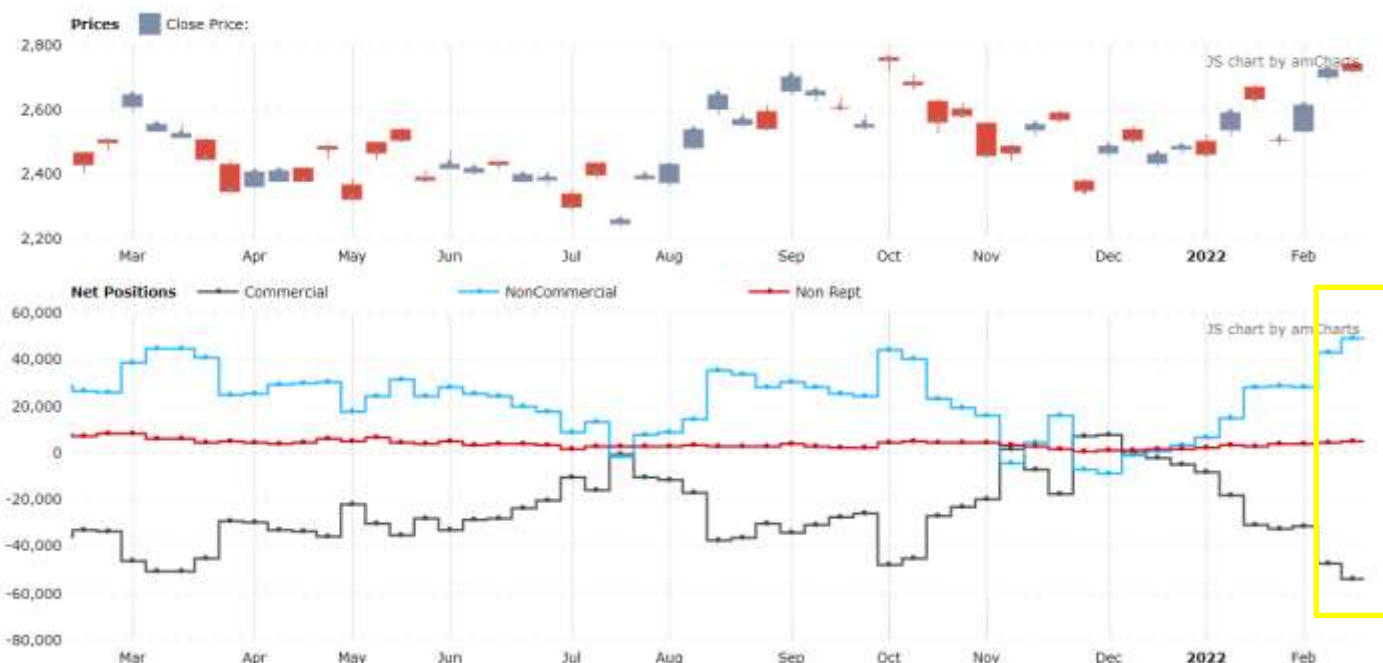
## 12. ファンド勢のNY先物は純買い越しポジションが更に増加 - 23か月ぶりの高水準(2/19)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋（Managed Money）は今週、純買い越しポジションを7,996ロット増やし、42,254ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、（今週で言えば、2月15日）の取引が含まれている。

- 純買いポジション（Net-long position）は過去23か月で最も強気（多い）数量
- 総買い数量は **8,609ロット増加**（先週は **14,158ロットの増加**）し、**69,329ロット**で、過去23か月で一番多い数字
- 総売り数量は先週より613ロット増加し、27,075ロットとなった。

### 参考分析資料；過去1年のNY市場の実需家VS投機筋のポジションと相場価格

#### Prices & Net Positions



投機筋の買い圧力は、先週の発表分よりも弱まったものの、引き続き買いが強い。一方で過去の事例から見ても、投機筋の買いロットがかなり大きくなり、産地側も高値を好んで売りに出たことから、先週は後半かなり調整され、相場が下落した。丁度このCOTレポートの統計は毎週火曜日までの数字をまとめているが、水曜日以降は下げ基調で特に木曜日、金曜日は大きく下げた。先週後半にある程度の数量の売りがあったので、週はさらに今までの買いポジションの手仕舞いで下げるか、もしくは、産地が引き続き乾燥している事やガーナの収穫が悪いことを背景にして、一段落した相場を安値圏とみて、再度買いが先行するかどうなるか注目である。個人的には数日の下げはあるかもしれないが、3月限月の取引が終わった段階を見て、再度上げていく方向性が強いと感じている為、手前のポジションで買い需要がある場合は早めに値決めを行いたい。

### 13. 投機筋、ロンドン先物は純買い越しポジションが更に増加。過去16週で最高値 (2/19)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) は今週、純買い越しポジションを **10,028 ロット** 増やして、33,306 ロットとなったことが、ICE 欧州先物取引所の発表しているデータから判明した。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、2月15日) の取引が含まれている。

- 純買いポジションの総量は過去16週間で最も強気水準
- 買いポジションの総量は2月15日までで、前週より8,383 ロット増加し、40,925 ロットで過去16週内で一番多い数字。
- 売りポジションの総量は2月15日までで、前週より1,645 ロット減少し、7,619 ロットとなり、売りポジションだけの総量では過去16週間で一番少ない数字。

#### 参考資料) LDN 市場の全プレイヤーのポジション一覧の分析

| Commitments of Traders  |        | Futures only                         |        |              |       |           |               |       |           |
|---|--------|--------------------------------------|--------|--------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|
| ICE Futures Europe  |        |                                      |        |              |       |           |               |       |           |
| 15/02/2022  |        |                                      |        |              |       |           |               |       |           |
| MktDate   | OI     | Producer/Merchant/<br>Processor/User |        | Swap Dealers |       |           | Managed Money |       |           |
|   |        | Long                                 | Short  | Long         | Short | Spreading | Long          | Short | Spreading |
| 15/02/2022  | 276533 | 155151                               | 202011 | 27125        | 24985 | 16102     | 38623         | 8010  | 14680     |
| Percent of Open Interest Represented by each Category of Trader |        |                                      |        |              |       |           |               |       |           |
| 15/02/2022  | 100%   | 56.1%                                | 73.1%  | 9.8%         | 9.0%  | 5.8%      | 14.0%         | 2.9%  | 5.3%      |
| Number of Traders in Each Category                              |        |                                      |        |              |       |           |               |       |           |
| 15/02/2022  | 139    | 49                                   | 41     | 13           | 8     | 15        | 31            | 13    | 13        |

ロンドン市場は、NYと比べて落ち着いた印象。全体のトレンドは同じであるが、買い圧力はNYよりやや弱く先週前半までの上昇幅も、後半の下落幅もNYに比べると小さめであった。どの程度売られたかにもよるが、投機筋の買いポジションは相当数にまで積みあがってきていた事は事実であるため、もう一段階の下げの可能性はあると考えるが、ある程度下げれば再度買われていくパターンが想定されるためまた反転していく

と予測している。ウクライナ情勢などで金を買われているように、実物背景のある先物は有事等の混乱期には買いの人気が出るためそういった影響もやや受ける可能性があるかもしれない。

余談ですが、ウクライナの前首相のペドロ・ポロシェンコはチョコレート王といわれた人物で、東欧では有数のカカオ豆の需要家でした。

引用：Wikipedia

大学卒業後ポロシェンコはカカオ豆取引のビジネスを始め、1990年代には複数の製菓会社（ならび企業）の経営権を獲得、傘下に収める。その後、保有する会社をまとめる形でウクライナ最大の製菓メーカー「ロシェン・グループ（ウクライナ語版）」を設立。チョコレート産業で財をなしたポロシェンコは「チョコレート王」ともあだ名される<sup>[7]</sup>。グループはその後、自動車・バス工場、造船所「レーニンスカ・クズニャ（ウクライナ語版、ロシア語版）」、テレビ局「5チャンネル（ウクライナ語版、ロシア語版）」も傘下におさめ、一大ビジネス帝国となった<sup>[8]</sup>。

2012年3月のフォーブス誌世界長者番付によると、ポロシェンコの資産は10億ドルで、世界1153位の資産家である

#### 14. 新商品紹介：横浜のホテル「インターコンチネンタル横浜 Pier 8」

チョコレートが主役のアフタヌーンティー 期間限定で開催

横浜ハンマーヘッドに位置するホテル、インターコンチネンタル横浜 Pier 8（所在地：横浜市、代表取締役：梅村東）は、チョコレートが主役のアフタヌーンティー「CHOCOLATE INDULGENCE」を、今月7日（月）～4月10日（日）まで期間限定で開催する。



アフタヌーンティーでは、純度の高いカカオを堪能できるスイーツを用意。フルーティーな味わいから、ビターなチョコレートまで、様々な風味のチョコレートスイーツを味わうことができる。

加えて、焼きたてマドレーヌやスコーン、セイボリーもラインナップ。セイボリーは、ジビエ、フォアグラ、トリュフをカカオの香りとともにコース仕立てにして提供する。

\*説明および写真は下記プレスリリースより

<https://www.fashion-press.net/news/84481>



## 15. 新商品紹介：数量限定！カカオの新しい楽しみ方、カカオジン



本商品は、“TOKYO LOCAL SPIRITS” をコンセプトに、東京の名産品を原料としてさまざまな種類のジンをつくっている「虎ノ門蒸留所」と世界 15 以上の国 を旅し、良質で唯一無二なカカオを探索・開発する「CACAO HUNTERS®」のコラボ商品だ。

原料としては、「CACAO HUNTERS」の小方真弓さんが開発したカカオニブトゥマコをメインに使用しており、オレンジピールやスパイス、ジンジャーを少しきかせることで、カカオの香りを引き立つ味わいとなっている。カカオ由来の油分が強く、アルコール 53% と少し高めの設定ではあるが、他にない複層的でアロマティックな風味を楽しむことができる。

ストレートはもちろん、ソーダ割りやフルーツカクテルのベースにもぴったりだ。また、カカオジンはチョコレートと非常に相性がよく、食べ合わせるチョコレートによっては、一気に変わる味わいを楽しむこともできる。

カカオジンを通して新しいチョコレートの楽しみ方を発見し、カカオの魅力と味わいの深さを堪能してみたいかがだろうか？

\*説明および写真は下記プレスリリースより

<https://www.rice.press/drink/14221>

\*購入はこちらから

<https://mixology-online-store.myshopify.com>

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 [w-ikuta@tachibana-grp.co.jp](mailto:w-ikuta@tachibana-grp.co.jp)

\*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではございません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。